

## 金曜コラム - 障がい者スポーツ:心を開いて見なければならぬもの...

## ミン・ソリ(ナザレ大学客員教授)

前回の記事で障がい者スポーツが一般スポーツとは別の意味であるリハビリテーションと社会参加について言及した。今回は貴重な友人を通して3つのメッセージを伝えてみようと思う。

2016年、夫と一緒に50日間のヨーロッパを行った。旅行という名目だが実際には障害関連機関の訪問が多くの部分を占めた。その中でも韓国の脊髄障がい者と一緒に10日ほど、スウェーデンの関連機関を訪問した。その時、スウェーデン、ストックホルムのコミュニン(住民センターと同様)に勤務する韓国人社会福祉士とストックホルム市庁舎で勤務する「マリン」という公務員に会うことになった。研修を終えてチーム員は皆韓国に帰り、夫と私は他の国を経由して数日後、再びストックホルムを訪問した。そこで再び二人に会って、スウェーデンのスポーツ施設を案内してもらい、多くのことを学べる機会となった。多くの内容の中から代表的な3つを一緒に分けてみようと思う。

まず、障がい者のスポーツ活動アクセシビリティである。「マリン」が案内してくれた機関のうち、ストックホルムプールは非常に記憶に残る。国際大会を誘致するほど規模が大きく設備がよくされているところだった。そこが記憶に残るのは、大規模だとか良い施設だからではない。まさに「アクセシビリティ」からである。ストックホルムプールはほとんど車椅子を利用する障がい者もアクセスが可能なようにアクセスが完備されていた。そのフィットネスセンターなど、すべての施設には点字案内がかなり大きくされていた。さらに驚いたのは運動器具であった。障がい者専用体育施設でもない、そこには障がい者専用の運動器具もなかった。しかし、障がい者が運動器具を利用するのに全く問題がなかった。まさに可変型運動器具があるからである。普段は障害を持たない人が運動をし、障がい者の利用時にはボタンを利用して固定された椅子を横にスライドさせれば車椅子に乗ったまま運動が可能な運動器具があったからである。マリンもそこで泳いでいると言った。彼女は脳性麻痺障害のある水泳選手でもあった。

続いて彼女は私たちをプールの前の小さな公園に連れて行った。なぜ突然公園に来たのかと言おうとした瞬間、私たちの周りでよく見ることができる公園の小さな運動施設が目にとまった。そこで私たちはもう一度驚いた。そのどこにも鉄で作られた一般的な運動器具は見えなかった。運動器具はすべて丸太で作られており、両側に分かれて配置されていた。一方は通常の成人が利用可能な程度のサイズと高さで重さであれば、一方は車椅子を利用する障がい者や子供にも使用可能な機構が配置されていた。運動器具のそばには車椅子に乗った障がい者の運動画像と一緒に使用方法について詳しく書かれた表示があった。障がい者用器具がなく、障がい者のための器具が高いから予算が不足するという言い訳が、ここでは必要のない話だった。

第二に、認識の問題である。障がい者の人権に関する研究と講義をする立場から障害と関連した様々な内容の人権に関するインタビューをしながら驚いた点である。スウェーデンでも障害関連従事者は人権の義務教育があるという。しかし違う点は、その従事者が義務教育を越えて自らスタディを組織して、障がい者の人権に関する研究を継続するという点であった。人権教育をして「義務教育=聞きたくない教育」というイメージで受講者はすでに拒否感で講義を聞いて、機関では義務教育の時間よりも最短の講義を要求する私たちの姿に悩んでいるのだが、マリンの話があまりにも不思議な力で迫ってきた。

第三に、「カネ」よりも優先的なものである。障がい者スポーツの3つの要素は通常「リーダー、プログラ

ム、予算」だという。上品な「予算」という言葉ではなく、より現実的に感じられる「カネ」という表現を使って見た。先日、夫は欧州の障害村である「キャンプヒル」を韓国に定着させようと準備するところに行ってきた。その代表が次のような話をしたという。多くの人がキャンプヒルに興味を持ってその場所とヨーロッパのキャンプヒルを訪問し質問をすると言う。ところが、多くの人々の関心はその効果、必要性、方法等ではなく、まさに「お金」というものである。「お金はどこから出てくるのか？」そこに優先的に興味を持つ姿があまりにも残念だということだ。

乾燥し尽くした今年の夏に韓国を訪問した彼女とのセミナーや会話の中でも、人々は予算に関する疑問が強かった。もちろん予算があつてこそ多くのことを支援することができる。しかし、我々がしようとする事の効果、必要性、方法.....それによって必ずしなければならないものだと判断した場合、予算は何とかしてでも作れないのか。「だめだ。あの国々は社会保障制度が良くできていて私たちとは構造自体が違うんだ。あれは韓国では絶対できないことだ。」という言葉を残してセミナーの席を去った「社会知識層」や活動家を見た。残った障害当事者たちはこう話をする。「とても良いです。あんなシステムやプログラムがあつたら私たちは、数年は早くリハビリをして健康を維持し社会参加をしたでしょう。また、いけないと言うかな？我々だけでも小さく始めてみますか？」との言葉だ。「価値」があることであれば私たちは「一緒に」始めなければならないのでは？「お金」が優先ではなく、その「価値」をまず見るべきではないか。

私たちに多くのことを感じさせてくれて助けてくれた彼女を紹介してみようと思う。マリンは私より2歳上の女性だ。スウェーデンで特殊教育を専攻して特殊教師として仕事をし、今ではストックホルム市庁舎で障害児童青少年レジャースポーツ調整官として仕事をしている。彼女のフルネームは「マリン・ヨンヒ・バント」である。そうだ。彼女は国籍はスウェーデンだが、韓国で生まれた。生まれたばかりのある冬、木浦の交番前に捨てられ、その警察官が彼女を初めて発見した。そして7ヶ月後に、彼女はスウェーデンに養子縁組された。彼女が2歳になったとき、彼女が歩くことができないということを知り、脳性麻痺の障害があることが分かったという。2016年ストックホルムで彼女に会い、約束していた。韓国に来たらセミナーを準備して彼女の話聞いてみようという話した。去る6月の最後の日にマリンは韓国に到着した。今回が三回目の訪問だという。2013年の最初の韓国訪問で自分の出生について調べ、2015年二回目の訪問で自分自身を発見した警察に会った。そして、今回の韓国訪問の主目的は、まさに生みの親を見つけることだった。到着した日から開始してSBSとjtbcなど放送の撮影があつた彼女は、慌ただしい中でも到着してから3日目、国会議員会館でセミナーを皮切りに、5日と7日は、私たち夫婦が用意した世宗市障がい者機関とナザレ大学でのセミナーに出席した。彼女は時差ぼけと暑い天候、そして注目される父母を探す事と自分の夏休みという貴重な時間を喜んで費やしてくれた。天安に泊まる時間のうち一日は、マリンと同行したピアと独立記念館に行った。彼女は言った。韓国を訪問したその時のうち、その日が最も満足して楽しかったと。わずか7ヶ月、韓国に住んでいた彼女は、どの韓国人よりも熱心に日本の植民地の歴史について熱心に見て記録してSNSで紹介をした。

彼女は大学でのセミナー発表開始をこのように続けた。自分の誕生と養子縁組の話をして子供のころ学校で自分が唯一の車椅子に乗った学生であり、東洋人だった。自分の子供の頃はとても大変で不幸だったが14歳になった年に初めて車椅子バスケットボールに接し、それが自分の人生を変えるきっかけになったという。自分にとってスポーツ活動はそのような意味だと述べた。前回の記事で障がい者にとってスポーツ活動がリハビリと社会参加という貴重な役割と意味があると述べたように彼女にとってもスポーツ活動はそうであったようだ。彼女はスウェーデンの障がい者スポーツについて多くの話を聞かせてくれたし、家に滞在中に

も国際電話を通じてスウェーデンの障がい者スポーツ専門家と私との会話をするようにした。そんな彼女の姿は私に申し訳ない思いをもたらした。

2年前、スウェーデンで初めて彼女に会ったとき、彼女は私たちに質問をした。「韓国では今でも障害を持つ子供をたくさん養子に送るのか」夫も私も何も答えることができなかった。そんな彼女が今回はこのように話す。親を見つける事と旅行をセミナーで邪魔して申し訳と言う私たちに「私は私のことも重要だが、韓国で共にしたセミナーと関連の時間が非常に楽しく意味深かった。私が少しでも助けになって韓国の障がい者がより快適で幸せな生活を生きていくことができるのなら私はこれからもあなたたちと共にする。」

自分をわずか7ヶ月間育ててくれた故郷のために、その障がい者のために時間と愛情とすべてを注ぐ彼女を見て、相変わらず私は申し訳なさ感謝の気持ちがする。3週間余りの時間の間に彼女は結局、親が見つからずに帰り、彼女の話は放送で伝えられた。特に熱かった韓国を離れて夏でも夜の気温は寒いスウェーデンに戻っていた日、ニュースではスウェーデンで260年ぶりの最高気温と50カ所の山火事のニュースが伝わってきた。彼女は1週間程度の休暇をさらに過ごした後、今は再びストックホルム市庁舎で障害児童青少年のスポーツ活動を支援するために懸命に働いている。たとえ家族が見つからなかったとしても、私たちは彼女の家族になることにしたし、彼女は最近も妹の英語力を向上させるようとメッセージで日々のニュースを伝えている。

## 01 コメディットコム 2018.8.21

### 【 “10歳の性的暴行、15年ぶりに悪魔に会った” 】

テニス選手出身キム・ウニさんは小学校4年生だった2001年7月から約1年間、コーチに四回性暴行をされました。

翌年（2002年）ある親の申告で学校や教育委員会に被害事実が知らされました。しかし、当時も「キス」がスキンシップの最も強度の高い単語であった小学生キムさんは、自身が性的暴行を受けたという事実を認知していませんでした。加害者はセクハラ疑いで辞職処理されたが、他のいくつかの学校でコーチ生活を続けました。

2016年にキム・ウニさんはある会場で自分を性的暴行したコーチと出くわします。加害者はサングラスをかけて堂々と試合に出場しました。金さんは事件が起こってから15年が過ぎてからコーチを強姦致傷の疑いで告訴しました。

ユ・ウネ共に民主党議員、韓国女性の人権振興院、体操協会役員キム OO 性暴行事件の共同対策委員会は20日、国会議員会館で「スポーツ界の性暴力問題の原因分析と解決策模索のために」討論会を主催しました。

自分を「約1ヶ月前まで刑事裁判に出ていた被害者」と明らかにしたキム・ウニさんは「性暴行関連スポーツ界全般の申告システム」をテーマに発表に立ちました。

キム・ウニさんは大学3年生の2012年になって、自分が受けた性暴力被害の事実を初めて口に出したと言いました。チョ・ドゥスン事件で未成年者性暴行事件の時効法案が改正されたという報道を見てコーチを訴えなければと決心しました。困難な相談を経て、警察署まで訪ねたが「証拠が不足して難しい」という答えだけが返ってきました。

キム・ウニさんは2016年、加害者と出くわして再び告訴を決心するようになりました。チョ・ドゥスン事

件、るつぼ事件、羅州暴行事件などを単独で入念に検索しました。キムさんは、「当時、光州女性の電話、ひまわりセンター、大韓体育会、文化体育観光部の4つの機関に被害事実を申告したが、積極的な支援をくれた機関がなかった」と言いました。

(訳注:光州市の聴覚障がい者の教育施設で2000年から5年に渡って校長をはじめとする教職員によって、7歳から22歳までの男女障害のある学生に強行された非人間的な児童虐待、集団児童性的暴行、その他とても列挙するのは難しいあらゆる悪行を通称する事件。この事件を素材にした小説、映画「るつぼ」の影響で「るつぼ事件」とも呼ばれる。)

(訳注:2012年8月30日、全羅南道 羅州市で行われた児童性犯罪、殺人未遂事件。リビングで寝ていた7歳の少女を布団のまま拉致して強姦し川岸の道路の近くに捨て逃走。被害者は数年が経過した後も睡眠を拒否しているという。)

キム・ウニさんは「勝つこともできない事件をなぜ取り上げるか」というひまわりセンターの担当者の言葉に「告訴状を受理して加害者を少しでも悩ませているなら、それだけでも慰めになる」と答えたが、担当者は沈黙し傍観した」と言いました。

キム・ウニさんは大韓体育会傘下のスポーツ人権センター、文化体育観光部傘下のスポーツの不正申告センターにも、それぞれ申告メールを送りました。メールを送信してから10日が過ぎても受信確認がされませんでした。キムさんは「担当調査官が割り当てされている場合にのみ半月がかかった」とし「もし今、性暴力を受けた状況だったら機関の回答を待っている一日一日が、血が乾く10年のように感じられたら」と言いました。

キム・ウニさんは「役立つ情報も、お金もなく告訴を準備し、これらが『誰のための機関なのか、誰のために存在している機関なのか』を常に思い浮かべるざるを得なかった」と言いました。キムさんは「スポーツ人権センターは、加害者懲戒権を持つ大学体育会の傘下機関として無罪推定の原則に基づいて、両当事者間の中立を守るしかない」ものであり、「被害者はもしか加害者が申告事実を知るようになることもあるという恐怖で申告自体をためらうしかない」と指摘しました。

結局、裁判所は一審で、キムさんを性暴行して外傷後ストレスを患った強姦致傷の疑いで加害者のコーチに懲役10年の刑と120時間の性暴行治療プログラム履修を宣告しました。去る7月26日の上告審控訴が棄却され、コーチに懲役10年の刑が確定しました。最初に訴状を作成してから2年ぶりのことでした。

キム・ウニさんは「過去2年間に100年を生きても経験しなかった痛みに悩まされた」と回想した。合意で事件を終結し裁判を諦めるか何度も悩んだ。しかし「15年間申告をせず発生した別の被害の責任が私にもある」という考えが、キムさんを捉えました。

キム・ウニさんは「必ず勝訴して他の被害者のためになる事例を作る」という誓い一つで始めたことなので孤独な戦いを最後まで持ちこたえることができた」と言いました。自分と似たような境遇に置かれた複数の被害者を個人的に助けている金さんは、「すでに精神的に不安定な被害者を法的、行政的に徹底サポートすることがスポーツ人権センター、スポーツ不正申告センターの責務」と強調しました。

キム・スングユ文化体育観光部体育政策課課長は、「管理当局の関係者として、ただ恥ずかしいだけ」とし「受理された申告メールをすぐに開かない勤務怠慢という事実は、把握できる線まで確認する」と言いました。イ・ビョンジン体育会監査室室長は「大韓体育会だけでなく、国会、政府レベルで協力して克服しなければならない問題だ」としました。

一方、フロア討論では現在の文体部スポーツ不正申告センター、大韓体育会スポーツ人権センターが正常

に機能していないとの指摘が出ました。ジュ・ジョンミ湖西大学校体育専攻教授は「スポーツ不正申告センターが今でも運営がされているのか」とし「運営確認の電話をしたが何日もつながらなかった」としました。ジョン・ヒジュン東亜大学体育学科教授も「大韓体育会のスポーツ人権センターに数回電話をしてみたが、きちんと返信が来なかった」とし「関連機関の担当者が被害受付業務に責任を持って取り組んでいると見えない」と指摘しました。

<https://news.v.daum.net/v/20180821072501312?d=y>

## 02 ハンギョレ 2018.8.22

### 【 '存置 vs 復元' 旌善(ジョンソン)アルペン競技場の葛藤 】

旌善アルペン競技場の復元をめぐり対立が大きくなっています。平昌冬季五輪の時アルペン競技が行われたガリワン山を元に復元する問題が残って住民が反対の声を上げる中で、環境保護団体は復元を要求して監査院の監査まで請求した状況だからです。

旌善群峰アルペン競技場の原状復元反対闘争委員会は 22 日午後、大統領府の前で住民 600 人余りが参加した中で集会を開きました。彼らは "地域の現実を無視した犠牲要求に怒る"、"地域感情を無視して原状回復とは何ごとか" などのスローガンを叫んで原状回復に反対しました。

ユ・ジェ Chol 復元反対闘争委共同委員長は「住民はオリンピックの遺産であるアルペン競技場を一方的に復元することをもう一つの犠牲を強要するものと認識している。組成と復元の過程で地域の意見は徹底的に無視された」と主張しました。朴スング旌善郡繁栄連合会長も「アルペン競技場の利点を観光化して、廃鉱で没落した地域経済を生かしてみることが郡民の意思」と言いました。

対策委はこの日の集会で、大統領府に△アルペンスタジアムオリンピック遺産を政府が管理△住民の意見が排除されたすべての計画の撤回△環境被害で犠牲になった郡民に相応の補償策を提示、などを要求しました。しかし、緑色連合と江原地域の市民社会団体と環境団体などはガリワン山復元の約束を一日も早く実施することを要求しており、葛藤が大きくなっています。緑色連合はすでに 6 月アルパインスキー場への監査を監査院に請求しました。

緑色連合の関係者は、「スキー場の建設前にガリワン山復元計画を策定することが原則である。しかし、オリンピックが終わって数ヶ月が過ぎた今もガリワン山復元計画はない。具体的な復元計画なしにスキー場を建設したので、ガリワン山復元自体も困難にぶつかった」と批判しました。

これに対して江原道庁の関係者は、「ゲレンデは復元しても空中のゴンドラと林道程度は存置する必要がある。それさえも無くしたら旌善はオリンピックを行った遺産が一つも残らなくなる。最小限の施設でも残して山岳観光などを通じた地域経済の活性化に役立つようにする計画だ」と言いました。

<http://www.hani.co.kr/arti/society/area/858722.html#csidxc7cc53f888029ef8df26f43b0adbcae>

## 03 MK スポーツ 2018.8.23 【 いつも通じたイランの「作戦」は通じなかった 】

難敵という表現がぴったりです。イランに対して気楽に 90 分を見守った記憶がありません。

2016 年 11 月 8 日 U-19 水原コンチネンタルカップで 3-1 と下したが、年齢別代表チームを合わせて収めた最近のイラン戦の勝利です。アジアサッカー連盟 (AFC) や国際サッカー連盟 (FIFA) が主管する大会の

範囲を絞り込む場合は、2012年11月11日 AFC U-19 チャンピオンシップ準々決勝です。6年前のことで、A マッチの勝利は、それより1年10ヶ月よりさかのぼらなければなりません。

アジア大会は23歳以下の選手たちが参加します。年齢制限のない選手3人をエントリーに含めることができますが、基本的な骨組みはU-23代表チームです。ソン・フンミン、チョ・ヒョンウ、ファン・ウィジョが加勢した韓国とは異なり、イランはワイルドカードも抜かきませんでした。1997年以降に生まれ選手たちで構成されました。主将のゴールキーパー、アミニ・チャジェラニが最年長で1996年生まれです。

監督が異なり選手が違って、イランの色は変わりません。イランが韓国に対応する方法は、似ています。ラフに対応しているのに神経戦を繰り広げて興奮を誘導しました。不利なとき倒れて長い時間起き上がらず時間を消費する方法も同じでした。

韓国はじっくり臨んだが早い時間に1回ずつゴールポストに当てながら試合はすぐにオーバーヒートしました。前半31分には、両チームの選手たちが衝突しました。繰り返されるような姿でした。

90分以内に勝負を決めなければなりません。とすれば先制ゴールの重要性が大きかったです。早い時間に入れるほど有利になります。前半19分ファン・インボムのシュート以降チャンスを作れなかった韓国は、21分ぶりに得られたチャンスを逃しませんでした。

有機的なパスでイランの右守備を崩したところ、ファン・ウィジョがゴールネットを揺らしました。模範解答のような得点でした。2分前ペナルティキックが宣言されない判定の物足りなさを後にしてファン・ウィジョ再び解決しました。今回の大会5回目の得点で単独首位に上がりました。

イランの作戦は通用しませんでした。韓国が望んでいた通り流れていきました。このゴールで遅れをとったイランは、積極的に立ち上がるしかありませんでした。グループリーグマレーシア戦の韓国のようにせっかちでした。パスの精度が落ちました。守備は抜け穴が見え始めました。

後半10分、ゴールが炸裂しました。今回もイランのゴールを割きました。イ・スンウが華やかな個人技でイランの守備を翻弄しました。イ・スンウの今大会初のゴール。0-0ではなく1-0だったので可能となった得点でもありました。

イランにもチャンスは与えられました。韓国の正GK趙ヒョンウが膝の痛みで交代となりました。しかし、あせっていたイランの攻撃は韓国の守備に全く脅威となりませんでした。イランは終始一貫して無力でした。このように楽にイラン戦を見守ったことがあったのだろうか。金ハクボム監督の話のとおり、最初から最後まで完全に準備した通り進んだ「快勝」でした。

<https://sports.v.daum.net/v/20180823232701910?d=y>

## INFOMATION

体育市民連帯 ソウル市 瑞草区 瑞草洞 1485-3 スンジョンビル 305号

체육시민연대 서울시 서초구 서초동 1485-3 승정빌딩 305호

Tel : 02-2279-8999、E-mail : [sports-cm@hanmail.net](mailto:sports-cm@hanmail.net)

ホームページ : <http://www.sportscm.org/>

日本語訳 : 佐藤好行 新日本スポーツ連盟 国際活動局 韓国担当 [jrlfgep@jarl.com](mailto:jrlfgep@jarl.com)